

エスレルによるナシの熟期促進について

八幸に対するエスレルの効果

中尾茂夫・緒方俊雄・古原剛二・姫野周二

(大分県農業技術センター)

NAKAO, S., OGATA, T., KOHARA, G. and HIMENO, S.

Studies on the Hastening Maturity of Pear Fruits by Ethrel.

Effects of Ethrel Treatment on the Hastening Maturity of Pear Fruits of "Hakko".

八幸(八雲×幸水)は早生青ナシとして注目されている品種であるが、早生ナシとしてはや、熟期がおそく、本県では8月中旬頃になる。そこで、これをエスレルによって熟期を促進し、価格の高い8月上旬の収穫の可能性について検討したので、その概要を報告する。

I 試験方法

7年生樹を用い、満開後80日、90日、100日に、それぞれエスレル50 ppm、100 ppm、200 ppmを1~2主枝単位に、3反復で散布した。散布量は1樹当りに換算して、約17ℓ~18ℓを散布した。

II 試験結果および考察

(1) 果実の大きさ

処理果は、成熟時点においては、無処理果との間に明らかな差は認められなかったが、無処理成熟果と比べると小さかった。

(2) 果色

各処理区ともに果皮の緑色ぬげが進み、処理濃度が高いほど著しかった。200 ppm区では過熟気味の果色となった。

(3) 糖度、酸および硬度

糖度、酸、硬度については明らかな差は認められなかった。

(4) 食味

8月2日、9日の食味では、無処理区ではまだデンプン臭があり、食べるにはまだ早い状態であったが、処理区ではデンプン臭もなく、十分食べられる状態にあった。

(5) 落果および裂果

落果は処理濃度の高い、満開後80日、100日の処理区に多くみられ、前者は未熟果の早期落果で、後者は収穫前の落果であった。裂果は80日処理区に多く発生し、処理濃度の高いほど著しく、その大部分は処理後1週間以内に裂果した。

(6) 日持ち

処理果は無処理果にくらべや、心ぐされの発生が多く見られ、日持ちが悪かった。

以上の結果から、エスレルによる熟期促進は7日~10日程度で8月上旬の収穫が可能と思われた。この場合のエスレルの処理時期、濃度は安全性と効果の面から、満開後90日頃の50 ppm程度が実用的であると思われた。

果実の品質については、無処理成熟果を上回ることとはあまり期待できず、果実の大きさでは無処理成熟果にくらべるとや、小さい傾向にあった。

しかし、商品性は十分認められる大きさであった。

第1表 エスレル処理と果実品質(満開後90日処理)

調査月日	処理濃度	処理自果径	横径	果重	糖度	硬度	酸	果色
8月2日	50ppm	61.6mm	80.7mm	271g	9.0	1.5kg	0.16%	2.8
	100		79.7	256	8.7	1.5	0.15	3.3
	200		79.5	265	8.9	1.4	0.14	3.8
	無処理		77.8	248	8.7	1.5	0.15	2.1
	有意性		NS	NS	NS	NS	NS	NS
8月9日	50ppm	61.6mm	81.9	276	9.8	1.5	0.13	3.0
	100		81.0	277	9.8	1.5	0.13	3.5
	200		81.7	283	9.9	1.4	0.12	4.0
	無処理		80.6	271	9.7	1.6	0.13	2.2
			(84.5)	(322)	(10.3)	(1.4)	(0.12)	(2.7)
有意性	NS	NS	NS	NS	NS	NS	**	
	(NS)	(***)	(NS)	(NS)	(NS)	(NS)	(*)	

(注) 果色1……未熟 3……適熟 5……過熟 ()内は無処理成熟時の値

第2表 落果および裂果

処理時期	処理濃度	累積落果	裂果
満開後80日 (7月11日)	50ppm	6.0%	33.1%
	200	13.3	57.9
" 90日 (7月19日)	50	1.4	1.6
	100	5.5	1.1
	200	5.3	4.3
" 100日 (7月29日)	50	6.6	2.6
	100	10.9	0.7
	200	27.7	4.3
無処理		1.9	1.2